

FIWC九州の学生と子どもたちの調理会
今までの成果と学生への感謝かみしめて

FIWC九州の学生たち10人と地域の子どもたち11人による調理会が、7月10日に金田商店街で行われました。当初からの目標のカレー作りには、参加者たちが協力して育てた夏野菜5種を使用。子どもたちは「食」のありがたみと、FIWC九州の学生たちや周囲のかたへの感謝を同時にかみしめながら味わっていました。



↑ FIWC九州の学生を見習い、「美味しくな〜れ!」のおまじないをかけながら調理。

↓ 当日は、機材の使い方や話す速さなど、総会前から準備してきた成果を発揮。



方城中学校「生徒総会」
初のパソコン越しの生徒総会で白熱議論

方城中は6月11日、会議アプリ「ZOOM」で全クラスを中継しての「生徒総会」を初開催しました。「トイレに芳香剤を置いてほしい」など、各クラスから出る議題に209人の生徒がWeb上で直接議論。生徒会長の小松美月さんは「久しぶりに顔を突き合わせることができ、挑戦してよかった」と感動をあらわにしました。

↓ 駅のデザインをした陶芸家・安永康一さんが描いた看板猫「生力創生」は必見。



「株創生」に感謝状贈呈
生活路線守る「生力ユーカリ園駅」誕生

生力駅のネーミングライツを契約し、同駅舎の改装に貢献した「株創生」に、平筑から感謝状が贈呈されました。新たな駅名は、冒頭に「創生」が運営する施設名を添えた「生力ユーカリ園 ふれあい生力駅」。「株創生」の下田啓一社長は「自分の思い出であり、地域の足でもある鉄路の力になれてうれしい」と目を細めていました。

子どもボランティア教室で地域清掃活動
感謝や奉仕の心を育てるボランティア

町社協主催の城山横穴群周辺と屋内競技場周辺の一斉清掃が6月27日に行われました。全小学校区から総勢40人の小学生が参加し、5班に分かれてごみを回収。城山横穴群では、町文化財担当の学芸員が「古墳時代以降の出土品も発掘されている」と紹介を交えるなど、約2時間汗を流し12袋のごみを集めました。



↑ 集中した中にも楽しみながら取り組み、達成感と充実感ある活動となりました。

↓ 評価の決め手となる速さと正確さを日々追求し、大会直前の訓練で息の合った技を見せる二人。



県消防救助技術指導会
長年の努力が実を結んだ大会

福智町出身の消防士・藤村祐人さんと朝部翔太さんが、6月4日に開催された県消防救助技術指導会のロープブリッジ競技に5度目の出場を果たしました。2人は総勢30チーム中2位という好成績で念願の九州大会への切符を獲得。新型コロナの影響で九州大会は残念ながら開催中止となりましたが、「2人にとって最後の大会で結果を残せてうれしい」と喜びを語りました。

金田稻荷神社で疫病退散行事
コロナ終息を祈り初の茅の輪くぐり

無病息災や厄除け、家内安全を願う夏越の行事として「茅の輪くぐり」が7月4日に初めて稻荷神社(金田)で行われました。人見地区と宝見地区の河川敷から材料の「ちがや」を刈り取り、直径約3mの茅の輪を神社総代11人で手作り。老若男女の参拝者が訪れ、一刻も早いコロナ禍の終息と無病息災を祈りました。



↑ 輪の前で一礼し、左右左の順に8の字を描くように3度茅の輪をくぐる参拝者。

↓ 出発前に大和監督や父・啓二さんと共に黒土町長を表敬訪問した森くん。



ポニー連盟第26回全日本選手権理事長杯大会出場
チームワークでつかみ取った全国への道

森謙二郎くん(金田義務7年)が所属する中学硬式野球ポニーリーグの嘉麻ボーイズが「ポニーリーグ九州連盟選手権大会」でベスト8に入り全国大会出場を果たしました。東京都内で7月22日に行われた試合では、神奈川県チームに惜敗しましたが、まだ森くんは成長著しい1年生。今後の活躍が大いに期待されます。